

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2022年度（第5回）若手研究者奨励金 受賞者

田村 昌大

酪農学園大学 獣医学群獣医学類 助教

〔研究課題名〕

超音波Shear Wave Elastographyを用いた新たな平均右心房圧推定法

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、多大なるご支援によりその目的を達成する事が出来ました。獣医学は、人と動物をつなぐ学問でもあります。医学・獣医学双方において、お互いに学び種の区別なくあらゆる生き物の健康の向上を目的とする「One Health：健康はひとつ」の理念に基づき、今後も研究結果が獣医療のみならず医学の発展にも寄与出来るよう精進いたします。

山崎 翔平

秀明大学 総合経営学部 助教

〔研究課題名〕

銀行業における自己資本の役割と自己資本比率の決定要因

－明治期国立銀行の営業報告データセットを用いた実証分析－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、本研究課題において多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、本研究を前進させることができました。本研究は、いわゆる歴史研究であり、現在の問題に対し歴史的な観点から接近をする研究となります。古い時代の事柄が現代にどのように役立つのか、必ずしも自明ではありませんが、「過去」を客観的に認識することにより「現在」を相対化する歴史的な視座を持ち続けることが、歴史研究（者）の存在意義だと考えております。今後も本研究課題に継続して取り組み、充実した研究成果として報告できるように精進して参ります。

三浦 正義

千葉工業大学 工学部 助教

〔研究課題名〕

自励振動ヒートパイプの熱輸送性能向上手法に関する研究
－作動流体へのマイクロカプセル相変化物質添加－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金をいただいたことにより、作動流体へのマイクロカプセル相変化物質を添加することによる自励振動ヒートパイプの熱輸送性能向上手法について、実験的に詳細を検討することができました。誠にありがとうございました。本研究で得られた知見を社会へ還元できるよう、実機による検証や更なる発展的研究について進めていきたいと考えています。

椎葉 一心

学習院大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

新たなパーキンソン病分子病態の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、若手研究者奨励金を授与していただき、ありがとうございました。ご支援のおかげで、パーキンソン病の分子病態の一端を解き明かすことができました。これからも本研究を継続して取り組み、発展・飛躍させ、素晴らしい研究成果として報告できるように精進して参ります。研究を進め、パーキンソン病を根治できるような創薬研究へと発展を目指して参ります。

堤 隼馬

北里大学大学院 感染制御科学府 特任助教

〔研究課題名〕

ポリケチド合成酵素の合理的改変と半合成による新規薬剤の創製

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本助成金により、研究の遂行に必要な実験消耗品、器具の購入ができ、気兼ねなく研究を進めることができました。この場を借りて熱く御礼申し上げます。本研究が今後、世界にインパクトを与える研究成果となるよう、今後も励んでいきます。

大塚 裕之

昭和大学 保健医療学部理学療法学科 講師

〔研究課題名〕

ヒト物体把持制御が皮質脊髄路興奮性に与える影響

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は若手研究者奨励金の援助を受けて行われたものであり、深く感謝の意を表したいと思います。この援助がなければ、本研究は実現しなかったと考えられます。科学研究は、結果が積み重ねることにより進展し、一つひとつの成果が次のステップへとつながっていきます。本研究により得られた知見は、今後のリハビリテーション法の開発に対する重要な基盤となるものであり、その知見は、脳卒中患者の上肢運動麻痺の改善、そして患者の生活の質の向上につながる可能性があります。このような社会への還元を目指す研究への援助に心から感謝申し上げます。

私たちの研究活動が社会全体の利益となるよう、更に研究活動を励みます。今後とも、ご理解とご支援をお願い申し上げます。未来の科学の進歩に向けて、共に歩んでいけることを期待しています。

植田 俊

東海大学 国際文化学部地域創造学科 講師

〔研究課題名〕

〈音〉で描き出す東京オリンピック・パラリンピックのレガシー
— 「共生社会ホストタウン」としての札幌市を事例として—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度、ご支援をいただいた本研究は、視覚障害当事者の生活の実態に即した現実的視点に立脚したものです。その意味で、これまで光が当たってこなかった「社会の現実」を解明し広く公開する機会がご支援のおかげで得られたことに、大変感謝しております。また、本研究で採用した視覚障害当事者と一緒に市内を踏査するエクスカージョンの方法は、「社会の現実」の解明に資するのみならず視覚障害当事者の「楽しみ」にもなった点が重要だったと考えております。調査者である私の興味関心に手引きされ、当事者は普段ほとんど訪れることのない場所に連れて行かれることが多かったのですが、調査に協力してくださった当事者の皆さんたちからは、「ヘルパーさんとは行けない、先生と一緒にだからこそ行けた場所（できたこと）ばかりで楽しかった」というお言葉を多くいただきました。一介の研究者の拙い関心に基づく調査であり、一緒に活動できたのは市内にお住まいの一部の視覚障害当事者の方に限られはしましたが、調査そのものが研究目的の達成以上の意味を持ちうることを理解できたことは大変収穫でした。障害当事者との協働を通じて障害者を取り巻く「社会の現実」の解明を目指すフィールドワーカーに今後もぜひご支援いただけましたら幸いです。私も引き続き、私自身が「障害当事者と一緒に活動する」ことを楽しみながら、それを通じて明らかになる「社会の現実」の可能性と問題性の解明と発信を続けていきたいと思っております。この度は、私（たち）の調査・研究にご支援いただけましたことに改めて感謝申し上げます。

正木 郁太郎

東京女子大学 現代教養学部心理・コミュニケーション学科 専任講師

〔研究課題名〕

企業組織の働き方改革と「企業が変わる」マインドセットの醸成

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究にご支援いただいたこと、重ねて御礼申し上げます。ご支援いただいた研究を通じて、「組織は変わるか否か」という信念に関する、新たな研究の糸口を見つけることができました。博士課程にて取り組んでいた研究（職場のダイバーシティ・マネジメント）の次の研究の柱として、今後も継続して取り組んでまいりたいと思います。

企業の「働き方改革」はときに政府要請などによる受動的・消極的理由で行われることも多いと理解していますが、一方で、本研究はこうした取り組みにポジティブ・積極的な理由を見出す点で、独自性があると考えています。さらに研究を深めることで、ポジティブな信念が組織に芽生え、それが広がることで組織が活性化し、より前向きな雰囲気の中で働くことができる組織を作る手がかりが得られるのではないかと感じます。今後は本調査で得られた結果を多くの方々にご紹介するとともに、企業の現場の方々から更なるご協力をいただけるよう（または協力の価値があると感じていただけるよう）、精進してまいります。

もし本研究の取り組みを通じて、寄付金という形でのご支援に加えて、「社会心理学という学問そのもの」や「自社の課題解決の手段としての（そしてそれを通じた社会貢献としての）産学連携研究」にもさらなるご関心を持っていただければ幸いです。

宇野 愛海

東京薬科大学 生命科学部応用生命科学科生物工学 助教

〔研究課題名〕

染色体導入阻害因子の探索とヒト人工染色体の高効率導入法の開発
－低分子化合物スクリーニングによる染色体導入効率改善法の探索－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度、若手研究者奨励金を賜り、寄付企業、寄付者の皆様に心より感謝申し上げます。独自資金を獲得し独自研究計画を実施できる、という貴重な成功体験を得られたことは、私にとっては何事にも代えがたい成果です。この体験を胸に研究者として邁進し、本事業に寄付者として還元できるよう努めます。本研究奨励金の主旨である、特色ある多様な教育・研究の振興と次世代人材育成の理念と期待に応え、わが国の豊かな未来を築く一助となれば幸いです。

鐵 百合奈

桐朋学園大学院大学 音楽研究科 専任講師

〔研究課題名〕

19世紀におけるピアノ協奏曲の少人数演奏形態の再現研究
－室内楽版の演奏から見える「ピアノ協奏曲」の本質－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は当該研究に対して多大なご支援を賜り、感謝申し上げます。「ピアノ協奏曲」というジャンルは、演奏に際して60人規模の奏者を必要とするため、演奏するだけでも膨大な予算を必要とします。本研究で「ピアノ協奏曲の室内楽版」の楽譜の復元を行ったことで、6人という比較的少人数での演奏が可能となりました。少人数でのピアノ協奏曲の演奏は、まさに19世紀の一般的な演奏形態でもあります。今日では一般的でなくなった「室内楽版でのピアノ協奏曲の演奏」を再び広めることで、ピアノ協奏曲の演奏検証を行いやすくし、より「ピアノ協奏曲」のジャンルの研究が発展することを願っております。

大月 興春

東邦大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

ジンチョウゲ科植物由来の抗HIV活性ジテルペノイドの探索研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、本研究を遂行するにあたり若手研究者奨励金を賜りました、日本私立学校振興・共済事業団の関係者ならびに支援者の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。本奨励金は私が研究者となってから初めて獲得した外部競争的資金です。このことは、研究に遂行においてだけでなく、研究者としてスタートしたばかりの私にとっては精神的にも大きな後押しとなりました。今後もさらに自身の研究を発展させ、素晴らしい研究成果を得ることで、薬学研究を通じて人々の健康に貢献できるようにより一層精進してまいります。

濱田 高彰

東洋大学 経済学部 助教

〔研究課題名〕

顕示的消費と競争回避財の役割

－企業行動による基礎付けと政策的含意の考察－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究課題に多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。1年間、資金面に不安を抱えることなく研究を進めることができました。近年では、「エビデンス」という言葉が盛んに用いられているように、データに基づいた実証研究の重要性が幅広く認知されつつあります。一方で、本研究テーマである顕示的消費のように、データに基づいた分析が容易ではない社会問題も数多く存在します。その意味でも、理論モデルを用いた考察は、研究を前に進めていく上で大きな価値があると考えています。経済学分野の研究が少しでも前進するよう、引き続き尽力して参ります。

吉竹 悠宇志

明治大学 農学部 助教

〔研究課題名〕

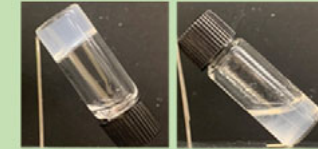
栄養条件下で誘導される葉緑体部分分解制御機構の解析

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、2022年度 若手研究者奨励金に採択していただきましたこと、奨励金のためにご寄付いただきましたこと、感謝申し上げます。本奨励金により、「葉緑体分解によるPiリサイクル機構」という私が発見した現象がどのようにして制御されているのか、その仕組みに関わる因子を丁寧に探索することができました。今回、得られた遺伝子およびタンパク質は実際に見られる現象から特定したものであるため、現象の根本的理解に繋がると考えています。今後も研究を重ね、得られた知見を「痩せた土地でも高品質の作物を作る技術の開発」等、社会に還元できるよう精進いたします。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

木村 真也

明治薬科大学 薬学部 助教



(R)-2-butanol (6 mM) (S)-2-butanol (10 mM)

〔研究課題名〕

薬物の血液－脳関門の通過を可能にする超分子ヒドロゲルの開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は日本私立学校振興・共済事業団 若手研究者奨励金に採択して下さい、誠に有り難うございます。中枢への薬物送達システムを実現するための新たな基材の開発ということで、非常に挑戦的な研究課題だと考えておりましたが、ご支援頂き、大変励みになりました。本奨励金のご支援のもと、貴重な研究成果を得ることができ、3報の論文を公表することができました。引き続き、中枢への薬物送達システムの実現に向けて、研究に尽力いたします。また、本研究の過程で、Tre-C6が溶媒のキラリティを認識するという興味深い現象を見出すことができました。このような性質は、キラル医薬品合成における光学分割へ応用することが可能だと考えられます。この知見をもとに、すでに新たな研究テーマを開始することもできています。以上のように、本奨励金のご支援により、多くの研究成果を得ることができました。心より感謝申し上げます。

永瀬 翠

東京工科大学 応用生物学部 助教

〔研究課題名〕

HPLCを用いた新規リゾフォスファチジルコリン分析法の確立

寄付者の皆様へ〔御礼〕

まず、本研究課題の意義をご理解いただき、2022年度若手研究者奨励金に採択していただいたこと、また、奨励金のために寄付していただいた支援者の皆様にご感謝申し上げます。若手研究者奨励金は、2022年度が初めての採択となりました。このように、若手でも奨励金をいただけるチャンスがあるということは、自身の研究や、若手研究者としてのキャリアアップにも繋がる、非常に重要な制度だと感じております。今回は一身上の都合により、研究を途中で中断せざるを得ませんでした。が、今後も研究を進め、社会に還元できるよう努めてまいります。これからもご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

仲谷 学

城西大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

塩基対形成・開裂を利用した金属錯体の異方集積化と機能開拓

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究課題に対して若手研究者奨励金を授与していただき、大変感謝しております。本研究のような基礎研究は、すぐに応用などに結びつくものではなく、地道な継続が将来の社会的意義につながると考えております。研究成果が日常で役に立つ技術へと応用されることは一番の社会貢献であり、研究者が目指すところではありますが、化学者として基礎の大切さも忘れずに、「基礎研究のすごさ・大切さ」も企業の方や一般の方々に、学会発表や大学広報を通じてアピールしていきたいと思っています。自身の成果を正しくかつ魅力的に発信することで、「科学の面白さ」を伝えていくことも研究者の役目だと思っています。今後も研究に精進し、様々な形で社会貢献をしていくとともに、大学教員という立場から教育を通じて後の世代に化学の楽しさを伝えていきたいと思っております。

城山 光子

麻布大学 生命・環境科学部 講師

〔研究課題名〕

日本における鞭虫症の感染源の解明

－野生のニホンザルに着目した分子生物学的検討－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は若手研究者奨励金を賜り、心より御礼申し上げます。研究環境も整っていない駆け出しの研究者に、多大なご支援をいただいたおかげで、研究環境の立ち上げを進めることができました。

「従藍而青」という言葉があります。植物の藍の葉は緑色で、その葉から得られる染色液は青ではありません。しかし、何度も繰り返し染め重ねることで、鮮やかな青色となります。この言葉の通り、今回の研究成果を礎に、人々の健康を守るお手伝いができるよう、日々研鑽と努力を重ねて参る所存です。この度はありがとうございました。

河端 和音

鶴見大学 歯学部歯科麻酔学講座 助教

〔研究課題名〕

口腔顔面痛領域における慢性疼痛持続メカニズムの解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、私の研究活動にご理解、ご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。また、日本私立学校振興・共済事業団の関係者の皆様にも心より感謝しております。今回、世間ましてや歯科においても未だマイナーな分野である「口腔顔面痛」に焦点を当てた本研究を採択していただき、大変励みとなりました。痛みは人が生きていく上で切り離せない感覚ですが、痛みを生じる疾患の病態は解明されていない点も多く、定義や診断方法、治療方法も刻々と変化しております。本研究を足がかりに、今後も研究に邁進していく所存です。

下窪 拓也

新潟医療福祉大学 健康科学部 助教

〔研究課題名〕

COVID-19感染拡大の責任帰属に関する実証的分析
－パンデミック下の分断のリスクと原因を探る－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

研究遂行のための支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。今回の私の研究は、新型コロナウイルス感染拡大期における人々の意識を対象としたものであることから、新型コロナウイルスの感染拡大が世間から注目を集めている時期に実施する必要がありました。本奨励金によって調査が実施できたことで、感染症拡大期の人々の意識という非常に貴重なデータを収集することが出来ました。感謝申し上げます。今回の研究で得られた貴重なデータを分析し、パンデミックなどの社会的危機の下で生じる分断のリスクの解明および、その予防策の考案へと発展させていきたいと考えております。このことは、差別や偏見を研究課題とする私自身のステップアップに加え、分断の予防策を講じることは、平和で持続的な社会の実現に貢献するものであると確信しております。今回の研究で得られた知見を基盤とし、さらなる発展的な研究へと邁進してまいります。

清井 武志

金沢医科大学 医学部薬理学 助教

〔研究課題名〕

オキサリプラチン癌化学療法における眼症状発生メカニズムの解明
－角膜神経興奮性異常とマスト細胞活性化を基軸とした新たな提唱－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、臨床現場の癌化学療法時に問題となる、副作用としての眼症状について新たな知見を得るための基礎研究です。本助成を受けて開始した実験動物へのオキサリプラチン単剤の投与試験では、眼症状の副作用に関わる顕著な所見を得ることができませんでした。実際の臨床現場では癌患者の背景は多様で、複数種類の投薬を組み合わせたレジメンで治療が行われています。そのため、どこに眼症状の副作用の成因があるのかを理解するのは単純ではありません。今回得られたネガティブなデータもまた貴重で新たな発見であることに相違なく、今後の研究計画の立案と遂行に向けて大いに役立ちます。どのようなメカニズムで抗悪性腫瘍薬による眼症状が生じるのかを明らかにするため、さらに詳細な解析を進めます。将来的には得られた研究成果を基軸として、癌化学療法時の副作用の緩和に資する対処法の確立に繋がりたいと考えています。ご支援いただき、誠に有難うございました。

清水 友理子

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部 講師

〔研究課題名〕

コロナ禍における、観光産業で働く子育て女性の労働と生活
－宿泊業で働く女性達への就労継続に関するインタビュー調査－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を実施するにあたり、日本私立学校振興・共済事業団および関係者各位の皆様からのご支援を賜り、誠にありがとうございました。このようなご支援があったからこそ、コロナ禍により研究の環境が変わり、これまでの研究調査の継続が難しくなった中でも、新たな研究テーマに挑戦することができました。
本研究で得られた結果を活用して、観光研究・観光産業・地域社会に貢献できればと考えております。そのために引き続き、調査の範囲や対象を拡げ研究を続けてまいります。
どうか、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

彦坂 潤

豊橋創造大学 保健医療学部 助教

〔研究課題名〕

体幹部制御を特徴とする免荷機能付き歩行訓練装置の研究
－再生医療時代へ向けて－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究の意義をご理解いただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係各位ならびに奨励金をご寄付いただいた皆様に心より御礼申し上げます。今回いただいたご支援により、本研究を前進させることが出来ました。今後は今回得られた結果を基に実機を用いた検証を進め、人々の健康寿命の延伸に寄与していけるよう引き続き精進してまいります。

米村 洋而

同志社大学 研究開発推進機構 助教

〔研究課題名〕

微小管結合タンパク質MAP2の特異的局在制御メカニズムの解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本奨励金に採択していただき、ご寄付いただきました企業様、関係者の皆様、日本私立学校振興・共済事業団の方々には深く感謝申し上げます。研究に必要な試薬類を購入できたことにより、より一層研究に取り組むことができ、以前より行いたいと考えていた実験を行うことができ、非常に有意義な実験結果をもたらすことができたと考えております。競争的資金全般を考えると、科研費を獲得していない研究者が得られる本奨励金のような助成金は珍しく、且つこのような救済的性質のある助成金は、若手研究者にとって非常に意義があり、私自身も研究を遂行するにあたり非常に助けられました。今後もこれまで取り組んできた研究をもとに新しい疑問や解決が望まれている問題に取り組み、研究データを基に社会還元できるよう邁進してまいります。

塩谷 和基

立命館大学 生命科学部 助教

〔研究課題名〕

高次領域から行動につながる情報入力を受ける感覚情報処理の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、2022年度 若手研究者奨励金に採択して頂き、誠にありがとうございました。2021年度に助教として着任した直後では、これまでの予算で購入してきた必要最低限の限られた実験機器しか所持していませんでしたが、今回ご助成をいただいた奨励金により実験機材を拡張し、効率よく実験を行うことができました。研究を遂行する上で、予算や環境など様々な要因が必要となりますので、今回ご支援いただいたことは、大変ありがたいものだと感じております。ご支援いただいた研究をさらに発展させていくために、今後も精進していきたいと存じます。

九鬼 靖太

大阪経済大学 人間科学部 専任講師

〔研究課題名〕

間欠的な全力疾走の反復における疾走動作の変化

－新たなトレーニング法確立のためのエビデンスを求めて－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

このたびは、貴重な研究費を受託できたことを、心から嬉しく思います。また、研究活動をサポートいただき、感謝申し上げます。少子化が深刻な日本においては、アスリートとしての人的資源も、今後は乏しくなることが容易に推測できます。その中で、国際的な競技力を維持するためには、貴重な人的資源を効率的に指導・育成する必要があります。そのためには、従来の非科学的な指導やトレーニング方法から、科学的かつ合理的な指導やトレーニングへと変化する必要があります。本研究は、社会全体から見ると極めて専門的で限定的な内容かもしれませんが、本研究結果を現場のコーチに届け、間欠的なスプリント能力は「根性では向上しない」と理解していただき、合理的な指導が行われる一助になれば、スポーツ界の発展に微力ながら寄与できると考えております。改めまして、今回は貴重な支援をいただきありがとうございました。

中西 淳

大阪工業大学 情報科学部 特任講師

〔研究課題名〕

シソーラスを用いた多岐選択問題作成タスクによる語彙学習の効果

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、若手研究者奨励金をいただきまして、心よりお礼申し上げます。本奨励金により新たな語彙学習支援システムの開発に着手し、外国語学習者の新たな語彙学習法の有効性を検証することができました。外国語を習得するにあたって語彙学習は大きなハードルになっています。それにも関わらず、まだまだ効果的な語彙学習法の答えは見つかっていません。本研究により新たな語彙学習法の可能性が見出されたと感じております。今回得られた知見を活かし、外国語学習における語彙学習の負担が少しでも軽くなるような学習支援システムの開発や効果的な学習法の提案ができるように研究を続けていきたいと思っています。

岡本 茉希

関西医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

人工乳房による動物被膜拘縮モデルの確立と新規治療法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は貴事業団2022年度若手・女性研究者奨励金助成に採択して頂き、心より御礼申し上げます。本研究は人工物再建の重大な合併症の一つである被膜拘縮の非侵襲的な治療の確立を目指して取り組み、今回の研究で動物被膜形成モデルの作成まで至ることができました。ただ、治療開発までは至ることができておらず、これからも研究を継続し、被膜拘縮で痛みや違和感を感じている患者様の助けとなるような治療法を確立できればと考えております。

また2020年よりハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが公表したことで有名になった遺伝性乳がん卵巣がん症候群の遺伝子検査と予防的乳房切除術が日本でも保険適応となりました。これにより乳房再建が求められる機会・回数が今まで以上に増えてきております。この需要に答えるためにも形成外科医として更に乳房再建手術の技術向上を目指し、患者様のQOLに寄与できるよう努力したいと思っております。

Josep Ferran

安田女子短期大学 保育科 講師

〔研究課題名〕

ケイパビリティ・アプローチからみた音楽教育における社会的包摂
－ 幼少期の移民の背景をもつ子どもを対象とした実践的研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

研究の遂行を可能にしてくださったすべての支援者、関係者に厚く御礼申し上げます。私はスペイン国籍でありながら、日本で生まれ育ったため、多文化的アイデンティティを活かしながら研究を進めて参りました。そのなかで、移民の背景をもつ子どもを包摂する音楽教育のモデルケースに衝撃を受けました。これまでの研究や教育経験から音楽教育と社会的包摂、つまり創造的な人々のつながりと個人の幸福には強い結びつきがあると確信しています。これからの日本の教育現場もより多文化化し、多様な国籍・文化の子どもたちの学び場となることが予想されます。少しでも子どもたちの学習や生活の質を高めることができるように、音楽教育に対する情熱を燃やしながら研究を進めていきたいと考えます。

喜屋武 龍二

福山大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

重水素原子の原子特性を利用した高活性カルベン型分子触媒の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究課題に対して、若手研究者奨励金としてご支援いただいたこと大変感謝申し上げます。高性能な触媒の開発は、製品の製造コストを下げることで我々の生活をより豊にしてくれるとともに、社会目標であるSDGsの達成に必要不可欠な研究分野の一つでもあります。今後も、社会実装に耐えうる重水素原子に着目した真に有用な触媒の開発研究を続けていく所存です。今後とも、基礎研究に対する継続的なご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

今城 遥

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部健康スポーツ学科 助教

〔研究課題名〕

共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査
－持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は私の研究活動へのご支援を賜り、誠にありがとうございました。この場をお借りして、御礼申し上げます。本研究で得られました結果は、愛媛県だけでなく多くの地域で抱えている障がい者スポーツに関する課題だと思います。今後は、共生社会を目指す中で、障がいの有無に関わらず一緒にスポーツを楽しむことができる機会を増やすことを目的に、県内の障がい者スポーツの普及に貢献できるよう、一層精進してまいります。引き続きよろしくお願い致します。

岩本 昌大

高知学園大学 健康科学部 助教

〔研究課題名〕

バクテリオファージKHP40を利用するピロリ菌除菌法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究に賛同し、ご寄付をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。人類は新型コロナウイルスによって、ウイルスの悪い側面を痛烈に思い知らされることとなりました。しかし、我々の身の回りには非常に多くの微生物が存在しており、その中で、《敵の敵は味方であるように》、同じウイルスであるバクテリオファージは、寧ろ治療に活用することのできるヒトにとって良い側面を持つウイルスであるといえます。かなり近い将来、がんを抜いて、薬剤耐性感染症（AMR）が死因の第1位になると予想されています。これは、薬の効かない難治性の細菌等の感染症がまた我々を苦しめることを意味します。このため、AMRに対する治療のオプションは喫緊の課題です。再び流行しうる感染症に備えて、今度はウイルスを《味方につける》ファージ療法がその一筋の光となるよう信じて取り組んで参ります。今後とも変わらぬ御支援をよろしくお願い申し上げます。

實吉 帝奈

久留米大学 医学部内科学講座（腎臓内科部門） 助教

〔研究課題名〕

電界放出形走査電子顕微鏡を用いた糸球体足細胞変化の解析
－3D Array tomography法による表現型解析－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、腎組織形態変化に着目し、疾患毎の特徴を把握することで、今後の腎組織診断の一助となり、またこれまで原因が明らかになっていない腎疾患の病態解明につながる可能性があります。まだ研究に足を踏み入れた段階ですが、今後もこの研究を進めて新たな発見が出来ればと思います。ご支援いただき誠にありがとうございます。

坂田 憲亮

久留米大学 医学部形成外科・顎顔面外科学講座 助教

〔研究課題名〕

創内ピンポイント持続陰圧洗浄療法での洗浄効率と適正陰圧の解明
－新たな持続陰圧洗浄療法による創傷治癒の常識への挑戦－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

創内ピンポイント持続陰圧洗浄療法は、皮下の閉鎖腔内を洗浄しながら陰圧をかけることで、創を治癒させることができます。したがって、脳などの重要臓器が露出するために閉鎖せざるを得ない場合や創内に除去できない人工物が存在する感染創に対して、この方法は非常に有用です。特に、胸部の人工血管など除去できない人工物に感染が生じた場合、縦隔洞炎などの重篤な感染症に移行し、死に至る可能性があります。そのため、このような人工物を除去せずに、感染を制御し、短期間で治癒させることができれば、患者のメリットは非常に大きいです。

また、外科系領域の手術創では、一定の確率で創感染が起こり得ます。手術の閉創の際に、予防的に陰圧・洗浄ドレーン留置を行うことで、術後に感染徴候がみられた場合に本法を速やかに施行できます。このことは、外科系診療科の術後感染の発生率を大きく減らせる可能性があり、治療期間や入院期間の短縮など外科領域の合併症治療に大きな貢献ができます。本研究に対して御支援賜り、厚く御礼申し上げます。

錦織 充広

福岡大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

寄生虫（トキソプラズマ）感染による宿主ミトコンドリアへの影響
－トキソプラズマ分泌タンパク質の作用機序に迫る－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、本研究課題に対してご支援いただき、誠にありがとうございました。今回の研究によって、寄生虫（トキソプラズマ）と細胞内のミトコンドリア間が特定の脂質を介して相互作用するという全く新しい知見を得ることができました。得られた結果は学術論文として現在、投稿しております。研究者にとって、研究成果を論文化することは社会貢献の機会を得るだけでなく、自身の業績として今後のステップアップのために非常に重要なポイントとなります。今回のご支援によって新たな研究成果を出すことができ、論文化につなげることが出来たことを大変ありがたく思っております。今後とも研究に邁進し、さらに多くの研究成果を世の中に発表できるように精進していきます。

稲田 紘舜

福岡大学 薬学部応用薬剤学教室 助教

〔研究課題名〕

フルオロキノロン系抗菌薬間での大動脈瘤・解離リスクの相違

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、ご支援を賜りました日本私立学校振興・共済事業団の皆様、ご寄付いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

大動脈瘤、大動脈解離は突然発症し死亡率が高いこと、フルオロキノロン系抗菌薬は使用量の多い抗菌薬の1つであることを考慮しますと、本研究は将来、使用するフルオロキノロン系抗菌薬の適正な選択、さらにはフルオロキノロン系抗菌薬の服用による大動脈瘤、大動脈解離に関する予測・軽減・回避対策の構築が可能となり、本薬物の安全性と有効性のさらなる向上が期待できるものと考えております。

社会に貢献できるよう今後も真摯に研究に精進していきたいと存じます。

池下 博紀

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 助教

〔研究課題名〕

アルツハイマー型認知症患者の潜在記憶
－プライミング効果からの検討－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回いただいたご支援により、本研究の遂行に必要な環境を整備することができました。コロナ禍での研究活動はデータ収集等に一部制限が生じた面もありましたが、自身の研究を前に進めることができました。今後もデータ収集等を継続し、研究の成果を社会に還元できるよう、精励する所存です。最後になりましたが、今回、本研究の遂行にご支援をいただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係者各位ならびにご寄付をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

門岡 千尋

崇城大学 生物生命学部生物生命学科 助教

〔研究課題名〕

クリプトコッカス属真菌が産生するカプセル多糖生合成機構の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を遂行するにあたり、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団および関係者各位に心より感謝いたします。ご支援いただきました奨励金によって、解析に必要な試薬類を購入することができ、新規な糖転移酵素を同定することができました。今後は、クリプトコッカス症に対する新たな抗真菌薬の開発に繋がるように本研究を発展させていきたいと考えています。